

8/30 五 被

汚染水「漁業者が衰退」

福島 いわき市漁協組合長語る

東京電力福島第一原発から出る汚染水「処理水」の海洋放出が始まり、福島県内外の漁業関係者から不安の声が広がっています。日本共産党の宮川孝子、吉田英樹両議員、熊谷賢一郎いわき双葉地区選区議員は28日、いわき市漁協漁民組合の江川兼代委員長と懇談し、思いを語りました。「福島県の漁業を存続して生活し、国益を担って来たわれわれ漁業者が衰退してしまふ」と面面相觑に眺めた、江川組合長の発言を紹介します。

共産党懇談

近海での台風発生が増え、規模も今ではハリケーン並みです。千島海溝や日本海溝、巨大地震が発生し大津波が来たら、福島第一原発だけでなく、第二原発はどうなるかと海をみては驚かす。「処理水」を保管しているタンクが漏れまるとなると考えられる。その上で「想定外」といふ言葉を使わないでほしい。敷地を確保し丈夫なタンクに移す必要がある。

「処理水」の海洋放出開始をめぐり、中国が日本産水産物を全面的に輸入停止するを強硬に拒否するが、漁民は「いわき市の漁業が、その被害が中国への輸出を断絶し、判断すれば、深刻化する」と懸念を述べた。

「処理水」の海洋放出開始をめぐり、中国が日本産水産物を全面的に輸入停止するを強硬に拒否するが、漁民は「いわき市の漁業が、その被害が中国への輸出を断絶し、判断すれば、深刻化する」と懸念を述べた。

「処理水」の海洋放出開始をめぐり、中国が日本産水産物を全面的に輸入停止するを強硬に拒否するが、漁民は「いわき市の漁業が、その被害が中国への輸出を断絶し、判断すれば、深刻化する」と懸念を述べた。



汚染水の海洋放出開始をめぐり、江川氏（右から二番目）と左側から宮川、吉田、熊谷の各議員。福島県漁業協会の江川兼代委員長と懇談した。

3年したらどうなるかわからず、不安は強い。後継者がやっていくには壁がいくつもあります。新たな船の整備も必要になります。1000年にわたる船は、12年で約500万円、31年たつた今では約1000万円、人も減っています。そこに億8000万円です。それだけの金を最初はいわゆる「国母金」として用意して、おかげで安心して働けるようになります。おかげでいい。

「処理水」の海洋放出開始をめぐり、中国が日本産水産物を全面的に輸入停止するを強硬に拒否するが、漁民は「いわき市の漁業が、その被害が中国への輸出を断絶し、判断すれば、深刻化する」と懸念を述べた。

「処理水」の海洋放出開始をめぐり、中国が日本産水産物を全面的に輸入停止するを強硬に拒否するが、漁民は「いわき市の漁業が、その被害が中国への輸出を断絶し、判断すれば、深刻化する」と懸念を述べた。